

Camponotus pennsylvanicus

(De Geer, 1773)

北米東部にすむ大型の黒いオオアリで、成長が遅く、夜に採餌し、樹木や湿った木材に巣を作ります。



写真：daksu, CC BY 4.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22-27 °C

巣の中



巣の湿度
50-70 %

巣の中



休眠
5-10 °C

10月 - 2月



結婚飛行
4月 - 7月

暑い日, 穏やかな天気



働きアリ
6-10 mm

大型働きアリは最大13 mm



女王
15-18 mm

女王は1匹



コロニーの規模
まだデータがありません

成長速度：普通



脱走リスク
中程度

アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう

1年をひと目で



この種の実産地での月です。正確な日は天気で決まり、室内で飼育しているコロニーは別のリズムになることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

砂糖

昆虫

おすすめの巣

- Ytongの巣
- 木製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ⚠ 好奇心が強い働きアリなので、アウトワールドに脱走防止の対策をしましょう
- ⚠ 冷蔵庫などでの低温の休眠が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

創設中の女王アリは、暗くて静かな場所に置き、様子を見るのはたまににとどめましょう。最初に産む卵は少なく、働きアリになるまでに少なくとも約60日かかります。女王アリを毎日確認し、3つのセットアップの間で移し替えていたある飼育者は、初期のブルードを失い、最初の働きアリが現れるまで約87日待ちました。1年目を5~30匹の働きアリで終えるのは普通のことです。

注意

綿の栓と水のバリアは、冬の休息中も含めて一年中点検してください。働きアリは綿、やわらかいプラスチック、石膏をかじります。ある飼育者は、冬眠中のコロニーが試験管の綿をかじって穴を開けたあと、溺死しているのを見つけました。滑らかな壁では、Fluonやタルクで働きアリを中にとどめられますが、垂直な壁にオイルやワセリンを使ってもとどめられません。